

のら書店　〒102-0074 千代田区九段南 3-9-11-202

『リパのおいしい庭づくり』発売

注目の著者・福井さとこさんの新刊！

庭師のリパが人々と出会い、美しい庭を作るシリーズの新刊『リパのおいしい庭づくり』が発売となりました。『リパの庭づくり』『リパとみつばちの庭』につづく本作の制作秘話を、著者の福井さとこさんにインタビューしました！

スロバキアの記憶から…

――このシリーズの主人公・リパは、福井さんがブラチスラヴァ美大に留学されていたときに知り合ったご友人がモデルなのですよね。スロバキアにいらっしゃった経緯や、モデルとなったご友人とのエピソード、スロバキアでの体験がリパの物語に及ぼした影響など、教えてください。

（福井さん、以下F）スロバキアへは、縁にみちびかれるように行きました。もともと、版画家のドゥシャン・カーライ氏の作品が好きだったのですが、作品の重厚さゆえに歴史上の人物かと思っていました。けれどスロバキアで教鞭をとっておられることを知って。当時私はアニメーションが専門だったのですが、カーライ先生のおられる場所がスロバキアの版画学科だったことで、版画を始めました。私にとってスロバキアで過ごした三年半は、本当の自分と出会うための大事なことを凝縮したような期間でした。スロバキアには、自然を愛する素朴な人々がいて、芸術が身近にある国でした。

リパのモデルとなった友人は、ルームメイトのミルカという子で、雛に教えるように私に言葉や文化を教えてくれました。植物が好きなミルカは卒業後、庭師となりました。スロバキアでは、農薬を使わない自然を利用した方法で庭作りをするそうです。人もまた大きな自然の中の循環の一部なのだと感じました。日本では個が強調され、コロナ渦も重なって孤独を感じる人が多いことを知り、ひとりではなく、みんなつながっているのだということを、このリパシリーズの共通したテーマで伝えたいと思っています。



福井さん（右）と友人のミルカさん＝スロバキアのブラチスラヴァ美大にて

思いをこめた物語と絵

――今回の本のテーマは堆肥作りですが、どんなふうにお話を考えられたのでしょうか？

（F）一巻はおばあちゃんの庭の再生、二巻は庭づくりの仲間のみつばち、三巻はまたなにか、庭づくりに大事な要素でと考えていました。そんな時、趣味ではじめたコンポストで、生ごみが面白いように森の土のようないい匂いに変わっていく様子に惹かれ、自然の力って本当にすごいなと。そこで、植物に重要な土、そして堆肥をテーマに描こうと思ったのです。

物語は最初は「リパが堆肥の作り方を子どもたちに教える」という設定でしたが、あまりにリパが博識すぎるように感じられ、どうもしっくりこなくて。ちょうどミルカと電話していて、スロバキアにも学校の全体を管理している人がいる、という話になりました。そこから、堆肥づくりをしている「ミルコ」という個性的な存在が現れ、子供たちとの関係性が動きだし、物語に仕上がりました。

――どの絵も美しく、野菜は美味しそうですが、こだわりの表現があれば、教えてください。

（F）リパシリーズの絵は、シルクスクリーン（版画）で制作しており、毎回テーマカラーを作ります。今回はまず、透明感のある美しい赤茶色を作りたいと考え、「落ち葉ブラウン」というインクの色を作りました。そしてその色と相性のいい「フレッシュグリーン」を作りました。野菜がおいしそうに見えるのは、この茶色とグリーンがトマトの赤やナスの紫を引き立てる組み合わせだからでもあるかと思います。堆肥のおかげで元気に育ったみずみずしい野菜を想像して、背景に、ごく薄い色をしき、何色もの重ね刷りをしました。そうしているうちに、気づけば平均六色、最多のページは八色刷りの豪華な本になりました。最後の展開は、野菜の収穫、バーベキュー、ミルコへのギフト、という流れになっており、嬉しい、美味しい、やさしい、三つの「気持ち」を表現するために色の表現にこだわりました。

――この秋、近江おごとハーブガーデンにアトリエ&ギャラリー「Sleeping Painter」を創設されましたね。

（F）近江おごとハーブガーデンは滋賀のおごと温泉の地にあり、琵琶湖が一望できる気持ちのいい所です。丘があり、日が当たるところや影になるところ、風の通り道があり、草も少し残されていて。いろんな生き物が集います。初めてこのガーデンを訪れたとき、まさにリパの世界のようで驚きました。この一角にある私のアトリエは、羊小屋の横にあり、目の前の原生林からは野鳥の声が飛び交います。シーコルの姿も！　日本ではめずらしいメディカルハーブを研究されていて、私も日々いろんな学びや発見があり、ここにいるだけで、新たな物語がつぎつぎと日々うまれていくようです。また今、毎月第二土曜に開催されている「土曜の市場」でアトリエをオープンし、版画の体験教室をしています。スロバキアでは、子ども達は小さい頃から画廊に通い、芸術が身近にありました。私も今後、季節の移り変わりとともに、植物や生き物を身近に感じながら物語をつくりつつ、芸術や物語の中ですごす時間を、周りの皆さんにひろめていけたらと思っています。

――福井さん、ありがとうございました。熱い想いが込められた本作を皆様にお楽しみいただけますように…！



版画体験教室で子どもたちと版画を刷る福井さん＝近江おごとハーブガーデンのアトリエにて

のら書店の最新情報はホームページよりご覧ください。X、インスタグラム、フェイスブックでも発信中！